

PRESS RELEASE

展示室に当館の茶室（古経楼・松寿庵・冨士見亭）の床の間の原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションのなかから名品を選び取合せて展示します。

今回は、懐石道具・炭道具のほか、桃山時代の茶人千利休（1522～91）とその弟子の古田織部（1543～1615）・細川三斎（忠興 1563～1645）らゆかりの茶道具などを展観します（会期中一部展示替あり）。

また、特集展示として、高麗茶碗を中心とする朝鮮半島のやきものを同時公開します。

五島美術館

今回の展覧会のおすすめ作品



芦屋真形霰地紋釜

鉄器／一合　高18.0cm　口径15.2cm　胴径21.1cm　底径14.6cm
室町時代・15世紀　五島美術館蔵

芦屋釜は現在の福岡県芦屋町周辺で作られた茶の湯で用いる釜です。頭が丸く大きな霰が全面に整然と並んでいます。真形というのは基本的な形式を備えた釜で、胴の上部に鐶付という耳が付き、本来は中間に鍔羽という火に懸けるための突出部があります。本品は、永年の使用から底が痛み、下半分を失ったため、新しく小さめな底をはめ込んでいます。その際に打ち欠いて不規則になった胴の裾をそのまま残した尾垂も見どころです。千利休（1522～91）が愛用したという伝承があります。



唐物肩衝茶入　銘 安国寺

陶器／一口　高11.2cm　口径4.5cm　胴径8.8cm　底径4.7cm　重174.7g
南宋時代・13世紀　五島美術館蔵

茶入とは抹茶を入れるために用いた陶磁器製の小壺のことであり、唐物とは中国製のものを指します。肩衝茶入は、肩の張った姿が特徴であり、名品と高く評価されるものが多くあります。本品は、戦国時代の僧侶安国寺恵瓊（？～1600）が所持したことにちなんだ銘が付いています。のちに武将茶人細川三斎（忠興　1563～1645）が所持し、西行の和歌からつけられた「中山肩衝」の別名があります。他の肩衝茶入に比べ大形であり、仕覆（茶入を飾る袋）が11点も添っているなど、付属品が豊富に揃っています。



重要文化財　古伊賀水指　銘 破袋

陶器／一口　高21.4cm　口径15.2cm　胴径23.7cm　底径18.0cm
桃山時代・17世紀　五島美術館蔵

胴の正面に大きな割れ目の入った堂々たる姿の水指。正面は若草色のビードロ釉が厚く掛かった上に窯の中の灰や土が付着し、背面は赤く焼き締まっています。歪みの強いこの姿は、桃山時代の武将茶人古田織部（1543～1615）が添えた「今後これほどのものはないと思う」という内容の手紙（関東大震災で焼失）の通り、見る者を圧倒するたぐいまれな存在感を有しています。藤堂家伝来の名品です。



黄瀬戸立鼓花生　銘 ひろい子

陶器／一口　高17.8-17.4cm　口径14.2-13.5cm　底径8.5cm
桃山時代・16世紀後期　五島美術館蔵

黄瀬戸とは今の岐阜県でつくられた美濃焼の一種。全面に淡緑色の灰釉が掛かっています。能楽などに用いる楽器の鼓のように、胴の両端が広く中央がくびれた形を立鼓と呼びます。「ひろい子」は、一度捨てて他人に拾ってもらったのちに貰い返して育てる子供のことであり、口縁部が広いところからの連想でしょうか。表千家四代江岑宗左（1613～72）の箱書があり、千利休（1522～91）旧蔵と伝わっています。



重要美術品　井戸茶碗　銘 美濃

陶器／一口　高8.8cm　口径15.3cm　高台径4.5cm　重387.8g
朝鮮時代・16世紀　五島美術館蔵

高麗茶碗（朝鮮時代につくられた茶碗）の一種である井戸茶碗は、侘茶において高い評価を得ています。本碗は、端正な姿にやや青みを帯びた枇杷色の釉薬が厚く掛かり、高台近くの梅花皮（釉薬のちぢれ）も鮮やかな名碗です。銘の由来は不明ですが、かつての所有者が美濃守であったのでしょうか。小堀遠州の箱書付があり、やがて姫路藩主酒井宗雅（1755～90）が入手後、松平不昧（1751～1818）へ贈られました。



熊川茶碗　銘 千歳

陶器／一口　高8.9cm　口径14.2-13.3cm　高台径5.8cm　重328.1g
朝鮮時代・17世紀初期　五島美術館蔵

熊川茶碗は、腰が丸く口縁の端が外反した独特の器形をした高麗茶碗です。慶尚南道の釜山に近い対日貿易港であった「熊川」からついた名称といわれています。本碗は、黄白色の釉薬を浸し掛けし、高台および腰の一部は胎土の見える土見せとなっています。銘は、鎌倉時代の歌人慈円（1155～1225）の和歌「雲の上によはひゆつると鳴鳥は君か千年を空にしれとや」（内箱蓋裏書付）に由来しています。

主な展示予定品（会期中一部展示替があります）

有馬茶会記　友阿弥筆　阿弥陀堂宛	桃山時代・天正18年(1590)	五島美術館蔵
重要美術品　芝山監物消息　芝弥八郎宛	桃山時代・天正18年(1590)	五島美術館蔵
千利休消息　横雲の文	桃山時代・天正19年(1591)	五島美術館蔵
利休文　あられ釜添文	桃山時代・16世紀	五島美術館蔵
古田織部消息　癡絶道冲賛画添文　津田宗凡宛	桃山時代・16世紀	五島美術館蔵
西湖の茶壺	明時代・16世紀	五島美術館蔵
唐物円座肩衝茶入　銘 利休円座	南宋時代・13世紀	五島美術館蔵
唐物肩衝茶入　銘 安国寺	南宋時代・13世紀	五島美術館蔵
唐物茄子茶入　銘 宗伍茄子	南宋時代・13世紀	五島美術館蔵
瀬戸肩衝茶入　銘 神無月	江戸時代・17世紀	五島美術館蔵
長次郎赤楽茶碗　銘 夕暮	桃山時代・16世紀	五島美術館蔵
志野茶碗　銘 梅が香	桃山時代・16〜17世紀	五島美術館蔵
瀬戸黒茶碗　銘 武蔵坊	桃山時代・16〜17世紀	五島美術館蔵
黒織部沓形茶碗　銘 わらや	桃山時代・17世紀	五島美術館蔵
金彩文字天目	南宋時代・12〜13世紀	五島美術館蔵
重要文化財　古伊賀水指　銘 破袋	桃山時代・17世紀	五島美術館蔵
信楽一重口水指　銘 若緑	桃山時代・17世紀	五島美術館蔵
黄瀬戸立鼓花生　銘 ひろい子	桃山時代・16世紀	五島美術館蔵
芦屋真形霰地紋釜	室町時代・15世紀	五島美術館蔵
千利休作裏張茶杓　筒 小堀遠州	桃山時代・16世紀	五島美術館蔵
古田織部作茶杓　筒 伊丹屋宗不	桃山時代・16〜17世紀	五島美術館蔵
呉州赤絵玉取獅子鉢	明時代・17世紀	五島美術館蔵
織部舟形手鉢	桃山時代・17世紀	五島美術館蔵
鼠志野鉢	桃山時代・16 〜17世紀	五島美術館蔵
呉州赤絵四方入角香合	明時代・17世紀	五島美術館蔵
桐鳳凰蒔絵螺細香合	室町時代・14世紀	五島美術館蔵
≪特集展示　朝鮮半島のやきもの≫		
重要美術品　井戸茶碗　銘 美濃	朝鮮時代・16世紀	五島美術館蔵
井戸茶碗　銘 九重	朝鮮時代・16世紀	五島美術館蔵
粉引酢次茶碗　銘 呉竹	朝鮮時代・16世紀	五島美術館蔵
熊川茶碗　銘 千歳	朝鮮時代・17世紀	五島美術館蔵
釘彫伊羅保茶碗　銘 苔清水	朝鮮時代・17世紀	五島美術館蔵

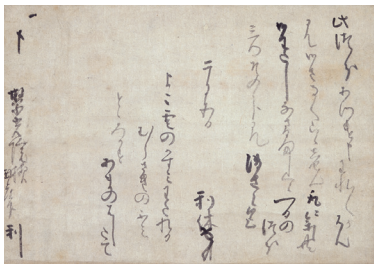
展覧会情報

[館蔵]茶道具取合せ展

TEA UTENSILS FROM THE GOTOH MUSEUM COLLECTION.

2026年12月19日[土]—2027年2月7日[日]

■協賛＝東急グループ
■休館日＝毎月曜日(1月11日は開館)、12月26日[土]—1月7日[木]、1月12日[火]
■開館時間＝午前10時－午後5時(入館は午後4時30分まで)
■入館料＝一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料
■交通＝東急大井町線〈各駅停車〉「上野毛駅」(かみのげ)下車徒歩5分



千利休消息　横雲の文



黒織部沓形茶碗　銘 わらや



呉州赤絵玉取獅子鉢



織部舟形手鉢

ギャラリートーク

当館学芸員によるスライドを交えた展示作品に関わる解説
五島美術館別館講堂　当日入館者聴講無料　椅子席180名先着順
当日の正午より受講整理券を配布します。

「茶道具取合せ展について」

1月13日[水]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

「茶の湯と染織」

1月19日[火]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

「五島慶太と茶の湯」

1月28日[木]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

特別公開

茶室「古経楼」「冨士見亭」特別公開

2月4日[木]午前11時—午後3時
当日入館者・入園者見学無料

■会期中一部展示替があります。また、当館には常設展示はございません。
■展示替のため休館＝2027年2月8日[月]—2月19日[金]
■次回展示＝[館蔵]近代の日本画展　2027年2月20日[土]—3月28日[日]

公益財団法人 五島美術館
〒158-8510 東京都世田谷区上野毛3-9-25　TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)
https://www.gotoh-museum.or.jp/(五島美術館ホームページ)

五島美術館(ごとうびじゅつかん)

五島美術館は、東急の元会長五島慶太(ごとうけいた　1882～1959)が、半生をかけて収集した日本・東洋の古美術品を根幹に、1960年に開館しました。展示作品は展覧会ごとに変わり、コレクションから各分野の代表作品を紹介、特別展では毎回特色あるテーマを企画しています。2011年には大東急記念文庫と合併し、翌年4月1日より「公益財団法人五島美術館」として歩みを進めています。2017年、本館と庭園内の茶室「冨士見亭」「古経楼」が、国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。



本館・中庭(photo by Shigeo Ogawa)



展示室1(photo by Shigeo Ogawa)



展示室2(photo by Shigeo Ogawa)

○ 開館時間＝午前10時—午後5時(入館受付は午後4時30分まで)
○ 展覧会と展覧会の間は展示替休館となります。
○ 入館料には入園料を含みます。
○ 障害者手帳をお持ちの方、ならびに介助者の方1名は200円引。
○ 入園のみ(展覧会をご覧にならない場合)は1人300円(中学生以下無料)。
○ 団体(20名以上1人1200円)は、受け入れを休止することがあります。

交通

東急大井町線(各駅停車)「上野毛駅」(かみのげ)下車徒歩約5分

○「渋谷駅」から
東急田園都市線→「二子玉川駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」
東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」

○「東京駅」「品川駅」から
JR京浜東北線→「大井町駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」

○「横浜駅」から
東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」

○「新横浜駅」から
東急新横浜線→「日吉駅」→東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」

上野毛駅からの地図



取材等の問合せ先
広報担当＝菅沢／島野
e-mail : press@gotoh-museum.or.jp　TEL 03-3703-0662(学芸部・管理部直通)／FAX 03-3703-0440